

“YouTuber Studio” で、みんなの夢アイデア発信！

はじめに

世界は不透明な未来に向かって歩み続けています。一般市民には見えません、わかりません。知りたい欲求にいささかでも応えるために、以下に述べる方法で、研究機関、専門業界、個人、それぞれに滞留する知見を、一般市民に開放します。そのことで、全国民の知的レベルを向上させ、知値革命をおこせるのではないか、そんな夢とアイデアを提案することにしました。

1. 紙の本より音声の時代？

色々アイデアが浮かぶので、本でも書こうかな、と冗談混じりに姪っ子に話してみました。すると彼女は言いました。

「今時、紙の本なんでなかなか読まれないじゃないかしら。動画の時代だし。車でも気楽に聞ける YouTube をやってみたら？」

「そっか、僕の考え、古いんだねえ。じゃどうすれば？」

「叔父貴、パソコンお持ちでしたよね。高級スマホだってお持ち。それでやれるんですよ」

「う～ん、そんなものかあ。一度、爺に手取り足取り教えてもらえんかな」

彼女は、遠方よりうちに来てくれ、パソコンにパワーポイントをアップし、画面を見ながら、私がしゃべる、という動画づくりを一緒にやってくれました。しかしその後、彼女は転勤になって頼れなくなってしまったのです。

実際やってみて大変でした。舞台照明、音響効果といった装置部門と、スポットライトを浴びる踊り子役を同時にこなすというのは無理でした。そして涙の数年が経過・・・。

2. “YouTuber Studio” を創ろう！

そこで生まれた私のアイデア。

どこかのオフィスの一角を拝借して簡単な舞台装置を創ります。そこに、名誉教授クラスの先生にきていただき、お話をしていただくのです。パワーポイントを使うなり、普段、学校でやっておられたスタイルで気軽に登壇していただきます。こちらから出向く方がいい場合もあるでしょう。



3. 何を発信し、誰が受信するのか？

- 1) 大学の知見の市民への開放 ⇒ 「市民大学校」の創設
- 2) 実現したい「夢アイデア」の市民への開放、及びその実現への市民と（夢アイデア部会員と）の協働
- 3) 世直しなどの提言

1) について。すでに述べた「名誉教授」クラスの先生をお呼びする（現役の先生にとっては本業ではないので）。

2) について。実現化したい夢アイデアを広く、お茶の間の皆さんと共有する。“だったらこうしたらいいよ”という市民からのリアクションが期待され、これが実現性を高めることになりそう。

3) について。少子高齢化など社会が抱える多くの問題を克服するアイデアであっても、埋もれたものも少なくありません。それらを発掘してお話しいただきます。一斑市民からも「お話をさせてください」といった要請もあるでしょう。

4. 腕より始めよ

最終ゴールは「雲の上」、まずは足元から。

1) について。当初は、九州在住の名誉教授クラスの先生を中心に、蓄積された知見を社会に還元していただきます。

受講生は「お茶の間」、「小中高生」、「九州一円の大学の学生」など。

テーマは、防災、環境、生物多様性・・・、文化人類学、比較社会文化研究。いくらでもあります。

2) について。過去の受賞者や、事務局で選んだ方に登壇していただきます。夢アイデア交流会での発表動画があれば、それが使えるでしょう。半年、一年間の予定表ができ、受講者に便利。

まずは福岡市内から出発し、ゆくゆくは県庁所在地に一つ程度、拠点を作っていきます。必要な備品はホワイトボードとかプロジェクターですが、ま、借りればいいですね。

●民放との連携

興味を示す民放があれば、テレビで放映してもらいます。テレビ局は、編集や取材の手間が省けるので乗ってくる可能性が高いのではないのでしょうか。

「九州の市民大学校」と命名し、一定の受講実績により卒業証書を授与すると励みになって受講生も増え、生涯教育の一環として認知されることでしょう。

●期待されること

生涯教育の一環となり、政府も支援体制をとることが期待され、運営が楽になる。

広い知識を得た一般市民に新しい価値観が育まれるのでは？

針路に悩む青少年へのよきアドバイザーとなるのでは？

（SDGsなどの）何かの行動にも繋がるのでは？

国民の政治などへの選択眼も肥えるのでは？

究極的な姿は、全国に広がり、大学の知見などが国民と共有されること。

閉ざされて死蔵されていた知見がオープンになることで、新たな知価革命が起こりえる。

5. 次世代型「夢アイデアプロジェクト」

現状：アイデア募集⇒発表・交流⇒実現化、というプロセスを**内部のメンバー**だけでやっている。

本案：実現に至る全行程に、多数の市民が参加することで、**本事業が社会化**され、現在の部会は、かじ取りをする役目が加わる。部会員は、従来通り、実現化に参加することで各自の成長を期待できる。追加業務が加わる一方、楽になる部分もあるだろう。トータルとしては変わらないと思う。

6. 本案の実現の可能性

経費の調達が不可能とは思えない。意義次第である。ゆくゆくは NPO 法人の設立が必要かもしれない。

7. 東京大学の新たな取り組み——「メタバース工学部」

東京大学の学生が所属する「正式な学部」ではありません。「中高生や保護者、学内外の学生、社会人らを対象とした各種プログラムの総称」だそうです。

また、東大のキャンパスに通って受講する講座ではなく、インターネット上の仮想空間「メタバース」で提供される教育プログラムとのこと。_____

インターネット上の仮想空間！？「メタバース」って何？？と思われる方もいらっしゃるかもしれません。メタバースは、コンピュータやコンピュータネットワークの中に構築された、3次元の仮想空間やサービスを指す。(Wikipedia より)

このアイデアは、東京大学の取り組みと軌を一にするものです。

8. 結び

時代は変わります。この夢とアイデアが共感を得て、実現への第一歩を踏み出すことを願ってやみません。以上